

こくようせき みち 黒曜石の道

黒曜石に対し、多くの人が関心を持っていることもあり、日本国内では、これまでたくさんの産地が見つっています。私が現地を訪れたところは、新原産地発見も入れると国内で約90カ所程度もあり、その数は年々増加しています。この中でも、特に長野県和田峠産のものは、埋蔵量と質の良さにおいて、北海道遠軽町白滝地域産の黒曜石に匹敵するくらい有名です。

産出地は、北海道を含めた東日本と九州に集中し、西日本は一部を除き、また四国では報告されていません。このような産地の分布は、黒曜石が新しい時代の限られた火山(流紋岩質の組成をもつガラス質火山岩を噴出する火山)と関係していることを反映しています。

北海道では、前述のとおり国内でも黒曜石の産出地が多く、道内の四大産地と言え、白滝・置戸・十勝三股・赤井川が知られており、現在でも大量にしかも良質の黒曜石を採取することができます。

道内では、新原産地も含めこれまで16地域・地方(2016年7月現在)で黒曜石の産出が確認されています。化学組成で分類すると全部で23種類になります。溶岩として見つかる場合のほか、そこから流されて転石となり二次堆積物として土壌中から見つかる場合があります。

産地と人の関係で興味深いことは、例えば、北海道の白滝産や長野県の和田峠産の黒曜石は、広い範囲で使用されていたり、島根県の隠岐(おき)の島後や長崎県の壱岐(いき)、東京都の神津島(こうづしま)、新潟県の佐渡島といった離島で産出する黒曜石は、海を渡って本土運ばれ使われていたことです。

黒曜石の産地(供給地)と、それが運ばれた土地(消費地)を様々な理化学的方法によって探ることで、先史時代の人々のネットワーク、すなわち、黒曜石の道=obsidian road が見えてきます。

(学芸員 向井 正幸)



八号沢の大露頭(遠軽町白滝)。



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

